

第1部アスリートのセカンドキャリア問題

～教育という視点からの考察～

The problems of athletes' second career

早稲田大学スポーツ科学部スポーツ文化学科 1K07B238-8 鰐淵基広

指導教員：主査 宮内 孝知先生 副査 間野 義之先生

【序論：研究動機・目的・方法】

大いに盛り上がりを見せる現在の日本のスポーツ界のなかで問題もいくつか生じてきている。今回はそのなかでもアスリートのセカンドキャリア問題について取り組むことにした。今回はより一般の人々にこの問題を理解してもらうことでよりこの問題に対する認知度を向上させることを本研究の目的とする。

【第1章：セカンドキャリア問題の概要】

プロスポーツという職業は華やかに見える反面、特殊かつリスクの高い職業でもある。また、経済の影響を強く受ける企業スポーツも近年の不況で着実にその領域を縮小しつつある。

【第2章：各視点におけるセカンドキャリア問題の考察】

セカンドキャリア問題は企業からアスリート本人、ビジネス、そして日本人の文化的価値観まで様々な要因によって複雑になっている。それらの要因を人ずつ解決していくことが必要である。

【第3章：セカンドキャリア支援の考え方】

セカンドキャリア支援策はいくつかあるもののその、根本となる考え方には共通するものがあり、それらを考慮していきながら支援策を講じていかななくてはならない。

【第4章：諸外国のセカンドキャリア対策】

多くの国でセカンドキャリア支援策がなされており、それは国によって様々である。各国のセカンドキャリア対策から日本にとってどのような対策が必要なのかがわかってくる。

【第5章：結論】

セカンドキャリア問題の根本的な原因はアスリートに競技のみに集中させる教育システムにある。アスリートをしっかり教育していくことで競技パフォーマンスにも向上がみられるのである。

第2部 大学スポーツの諸問題

～今日における大学経営からの考察～

The problems of universities' sports club

【序論：研究動機・方法・目的】

今日に厳しい状況にある大学のなかでスポーツは重要な存在であり、大学運動部に頼りすぎるあまり、問題が生じつつある。この問題を論じていくことである種の警告を促すことを本研究の目的とする。

【第1章：大学の現状】

今日、長引く不況と、少子化の影響により大学が潰れる時代へと突入しつつある。この環境の中では、各大学、生き残るための経営戦略が重要になり、そのなかで大学運動部は大学の広告塔として非常に重要な存在となっているのである。

【第2章：経営資源としての大学スポーツと大学スポーツの問題】

大学スポーツの広告効果は大きい。そのため、各大学、優秀な学生アスリートを獲得することが大学経営の鍵を握るようになった。その流れから大学スポーツもビジネス化してしまっている。奨学金名目で優秀な学生アスリ

ートを雇用しているのである。アカデミックマターの探究を第1義とする大学でスポーツばかりに専心する学生アスリートは本当に大学生と呼ぶことができるのだろうか。

【第3章：学生アスリートの弊害とこれからの展望】

学生アスリートにフルタイムのクラブ活動へのコミットメントが課されるようになり、学業の専攻や就職活動に支障が出てきている。しっかりと大学に対して権力を持つ第三者機関を設けることで管理を徹底していくが求められる。

【終論：まとめ・今後の課題】

スポーツは素晴らしいものである。そのスポーツによって後の人生に支障が出ることは望まれる事ではない。特に大学は重要な時期であり、スポーツ以外にも様々な経験が得られることから各大学はアスリートをしっかり学生として扱うことがこれからの大学スポーツにとって重要になってくる。